

# テッククリートTBR施工要領書

令和5年2月



エムケービルド株式会社

## 適応条件

項目	適用基準
用途	コンクリート舗装目地部の角欠け及び目地部の損傷
施工幅	12cm以上(目地部は4cm以上)
施工長さ	12cm以上
施工厚	3.8cm以上20cm未満 厚みを2.5cm以下で重ねて舗設してください
勾配	6%以下 その場合、最上層の厚みは1.5cm以下にしてください。

## 調査

### ①目視調査からの評価

目視調査で目地部の角欠けが認められた場合、路面性状調査を実施し、詳細を把握する。

### ②路面性状調査からの評価

目視調査で目地部の角欠けが認められた場合、路面性状調査を実施して評価を行う。維持修繕工法を選定するに当たっては、路面性状調査から得た角欠け部の長さや幅をもとに表-3.3.14を参考に行う。

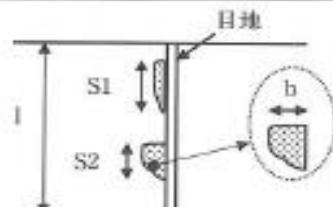
表-3.3.14 目地部の角欠けからの工法選定上の区分の目安<sup>⑨)</sup>

工法選定上の区分	判断の目安
L	角欠け幅 150mm 未満あるいは角欠け率 50%未満
M	角欠け幅 150mm 以上あるいは角欠け率 50%以上

<備考>

l : 目地の長さ (cm)      S : 角欠けの長さ (cm)  
b : 角欠けの幅 (mm)

角欠け率 (%) =  $\frac{\text{角欠けの長さの累計} (S_1 + S_2)}{\text{目地の長さ} (l)} \times 100$



注:L, M は、維持修繕工法を選定するにあたっての目安であり、維持修繕行為の実施の要否を判断する管理目標値とは異なる。

舗装の維持修繕ガイドブック2013（日本道路協会）を引用

## 工法選定

表-3.4.4 コンクリート舗装の破損と工法選定上の区分に応じた維持修繕工法の選定の目安

コンクリート舗装の破損		維持修繕工法	破損の分類	維持工法						修繕工法			
				パッチング工法	シリリング工法	表面処理工法	粗面処理工法	グルーピング工法	注入工法	バーステラチ工法	打換え工法	局部打換え工法	オーバーレイ工法
ひび割れ	ひび割れ度	構造		L						L, M	M, H	L, M	M, H
	横ひび割れ <sup>②</sup>			M	L, M					L, M	H	H	
目地部の破損	段差（エロージョンの発生）	構造	L, M, H						L, M		H	M, H	
	はみ出し・飛散			路面		L, M							
	角欠け	構造	L, M	L									

表-3.4.3 コンクリート舗装の維持修繕工法の概要<sup>⑩</sup>

工法	概要
パッチング工法	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンクリート版に生じた、欠損箇所や段差等に材料を填充して、路面の平坦性等を応急的に回復する工法</li> <li>パッチング材料にはセメント系、アスファルト系、樹脂系があり、処理厚によりモルタルまたはコンクリートとして使用する。いずれの場合でも、コンクリートとパッチング材料との付着を確実にすることが肝要である。</li> </ul>

舗装の維持修繕ガイドブック2013（日本道路協会）を引用

### 材料

#### 1. テッククリートTBR

材料名	写真
テッククリートTBR	 姿荷 16kg

\*この材料と容器の廃棄は有害特別廃棄物取集場所に処分する。

\*保管は2年間

\*雨に濡れないよう、製品にシートをかけてください。

#### 2. プライマー

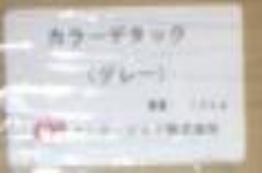
プライマーは、「テッククリートプライマー」又は、同等品以上とする。

材料名	荷姿
テッククリートプライマー	1リッター缶

\*保管は凍結させないこと。保管温度は4°C～37°C

### 3. 珪砂

デタック粉(グレー色)又は、同等品以上とする。

材料名	写真
カラー デタック	

### 品質管理

項目	基準値	ASTM規格	試験
色相	グレー		
比重	2.1以下	ASTM D2726	
流動性60°C／5時間	5%以下	ASTM D5329	クラフコ社が製造lot 毎に試験実施
折り曲げ性	ひび割れ・骨材接着力の剥離 は見られるか	ASTM D3111	

### 日常施工温度管理

項目	基準値	備考
路面温度	4°C以上	
テッククリート加熱温度	190°C～204°C	
2層目充填する際の1層目の温度	93°C以下	
3層目充填する際の2層目の温度	93°C以下	
交通開放	40°C以下	

### 施工機械

#### 1. 溶解釜 EZメルター30(特殊バーナー付)

溶解釜(外部)	特殊バーナー
	

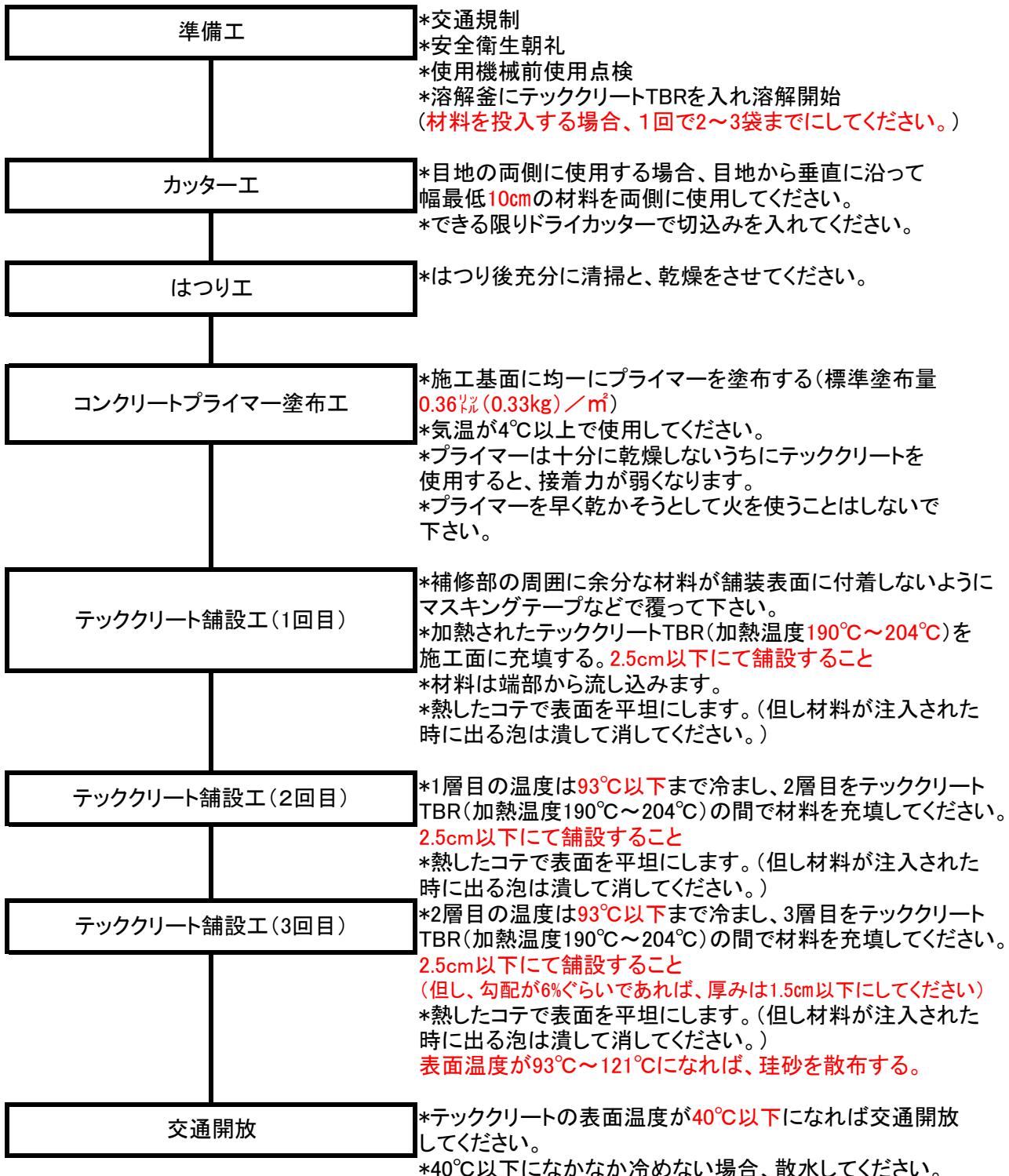
## 2. 工具

非接触赤外線温度計	バケツ	攪拌棒
		
スコップ	コテ	
		

その他

- \*消火器
- \*トーチバーナー
- \*プロパンガス
- \*手袋
- \*水
- \*マスキングテープ

## 施工方法



## テッククリート施工手順(1／2)



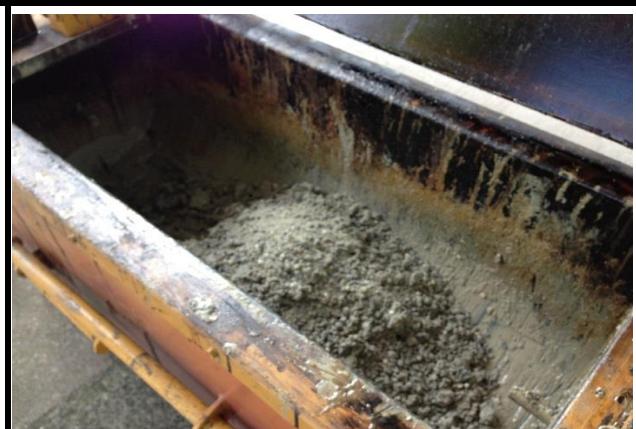
①施工前  
目地部角欠けひび割れ部分を目視と打音検査により  
補修範囲を決める。(浮いている部分は残さないこと)

②-1溶解釜の準備  
ガスボンベの取り付け



②-2溶解釜の準備  
直結バーナーの入り口取り付け部を少し持ち上げると、取り出せますので、右側のバーナーから点火してください。

②-3溶解釜の準備  
直結バーナーの火力の調節は拡大写真の位置へひねると写真の炎の大きさとなります。(マークが本体側の方向へくる約180度)



②-4溶解釜の準備  
直結バーナーの炎の色等がおかしい場合は、ここ  
の部分で空気量を調節してください。(適量に設定済)

③材料を投入  
一回目の投入量は2袋～3袋にしてください。

## テッククリート施工手順(2／2)



④はつり

⑤プライマー塗布  
しっかりと施工基面を清掃・乾燥させた後、マスキングテープを端部に貼り、プライマーを塗布する。(塗布量0.36リットル(0.33kg)／m<sup>2</sup>)



⑥材料溶解

材料が焦げないように、しっかりと混せてください。

⑦材料投入後成形

材料が加熱温度190°C～204°Cの間でコンクリートと同じような状態(材料がしゃばしゃばの状態)になれば材料を充填します。そしてコテで成形します。1層の厚みは2.5cm以下で舗設することを推奨します



⑧成形

補修箇所に隙間ができないようにコテを熱して、成形します。また泡が出てきた場合、潰して消します。最後にマスキングテープを取り、端部をバーナーで炙り、骨材が表面に浮いてきましたら完了です。

⑨骨材散布から交通開放

表面温度が93°C～121°Cになれば、珪砂を散布する。路面温度が40°C以下になれば交通開放できます。(なかなか温度が下がらない場合、散水を行ってください。)